

1. ルイヴィトン150年の歴史でわかるブランドの重さ

時空を超え中世から現代へ世界を翔けたルイヴィトン展が六本木ヒルズアーツギャラリーで行われています。150年前14歳のルイヴィトンがパリへ向け400キロを徒歩で旅する道中、旅に必要な道具に関する知識や技術を習得し、その後パリで荷作り用木箱職人になったことがヴィトン家の運命を決定し、その後150年に亘り今日までのクリエイションの歴史が興味深く見ることが出来ます。

馬車の時代 鉄道の時代 豪華客船の時代 自動車の時代 飛行機の時代とそれぞれの時代の要請を先取りしたパッケージを開発し続けた作品が正に時空を超えて陳列されています。例えば豪華客船時代は帽子や靴のパッケージが船室では家具や調度品になったりと、その変遷をながめていると伝統とかブランドとかの重みを感じざるを得ません。簡単にちょっと売れたから、知名度が上がったからブランドになったなんていう軽いものではないぞと戒められた気になりました。そういえばあのエルメスは6代目です。

2. ビームスが横浜で居住空間をプロデュース

- ファッション屋がホーム、インテリアへ進出の時代へ -

昨年末にビームスの設楽社長と食事した際に今度、横浜のミナトみらい地区で野村不動産のマンション「COTTON HARBOR TOWERS」をビームス仕様で空間プロデュースしますと話していましたがいよいよ今年実現します。北欧のデザインをベースにどう「住むか」でなくどう「暮らすか」の空気感を提案し、半歩先をいく生活スタイルにこだわるそうです。既に横浜地区を中心に折込広告も配布され大変な人気だそうです。UAの重松会長もホームに挑戦したいとのことですし、ワールドがこの3月、銀座松坂屋B2の全フロアー、インテリアに進出が決まっています。日本は食とファッションは世界でも一流ですがインテリアは世界の三流といわれています。ファッション業界が本格的にホーム、インテリアに参入し始めたようですが単にショップを持つということではなく不動産業界と組み空間をプロデュースするビームスの試み注目です。

3. 全国SC大会接客コンテスト「玉屋」の快挙

1月26日に全国SC大会の接客ロープレコンテストが行われ、審査委員に任命され各地区から選出された20名の方々の審査をさせていただきました。

年々、レベルが上がり地区予選を勝ち上がるのが大変という状況で大阪の婦人服「玉屋」がなんと4名も全国大会に選ばれました。地区大会選出者411名から最終20名の内なんと4名が玉屋社員ですからその躍進振りは審査委員の話題にもなったほどです。選考結果は大賞にトリンプの久保田さん、ファッション部門の優勝者に玉屋の販売歴8ヶ月の藤田さんが選ばれました。

大賞のトリンプは3名選出されていまして玉屋と2社の躍進が大変目立った大会でした。両社に共通している点はCS活動にトップから現場まで一丸となって取り組んでいる点です。この大会があるからやるということではなく「販売CS」が今こそ必要、その為の教育には時間

とコストがかかりますし、なによりも全員の前向きな意欲が大事になりますがそれを毎年やり続ける企業姿勢がこのような結果に繋がったのではないのでしょうか。

4. COCON KARASUMA

昨年12月にオープンした京都の商業施設COCON KARASUMAのコンセプトは「古き良き京都と新しい時代性をミックス」で、建築家 隅 研吾がプロデュースした。

昭和13年竣工の旧丸紅ビルの壁を壊さずその上にモダンな意匠を重ね合わせる手法をとった(ビルの中にビルの壁がある)。更に新しい外壁はガラス張りだがそのガラスにプリントされたグラフィックは寛永年間創業の唐紙の老舗「唐長」に伝わる古典文様「天平大雲(雲の図柄)」で館内の共有スペース(照明・EVホール・館内表示など)も全て同柄でコーディネートされ、そのセンスの良さが光る。テナントは10店舗で「AUX BACCHANALES(飲食)」「KIRA KARACHO(和紙)」「aura shop(インテリア)」「LiSN(お香)」などはかなり混雑していました。

京都市下京区烏丸通綾小路上ル水銀屋町620番地 TEL 075-352-3800

<http://www.coconkarasuma.com/>

5. 11代の重みを現代に活かす京都「唐長」

創業1624年の伝統を誇る「唐紙(襖)」専門店。初代は狩野探幽と一緒に襖の仕事をしたそうで現在11代目だが、襖から今やインテリアグラフィックへと変貌しており、現存している柄650種中(板木も現存)から選んで、提案されているリビング、キッチン、トイレ等の空間演出は見事な出来映えでした。

ちなみに、奥様の千田郁子氏によると、費用は襖1枚分で15万位(張替え工賃別)とのことでした。

COCON KARASUMAの「Kira Karacho」は娘さんがプロデュースした便箋、葉書、各種カードなどの小物雑貨を取り扱っています。

京都市中京区両替町通三条上ル西側 TEL 075-254-3177

<http://www.karacho.co.jp/index.html>

6. アパレル業界04年大手の勝ち組が増収、05年は?

アパレルの市場規模は約4兆円と推定されていますが、売り上げは、1位オンワード2677億円、2位ワールド2362億円、3位ファイブオックス1750億円、4位ワコール1631億円、5位ゲンゼ1599億円、6位イトキン1449億円、7位三陽商会1445億円、8位レナウンダーバン1300億円、9位サンエー・インターナショナル910億円と大手上位企業が増収でした。

下位企業では03年だけでも、ジャンメール、アトリエ・サブ、福助、トレンザ、ライカ、東京ブラウスなど民事再生法申請企業が相次ぎ、04年も減収に歯止めがかかっているとはいえません。

矢野経済研究所によると日本の高級ブランドの市場規模は2.5%減の1兆1千8百97億円と3年連続で前年を下回る見通しとのことですが、高級市場では海外ブランドが、ボリューム市場ではユニクロ、しまむら、青山、アオキ、などが、アパレルは中間領域に閉じこもってしまった様にも見えます。

流通構造が大きく変化するなか、主力販路である百貨店の行方と合わせて注目され、05年は次の一手が打たれそうにも見えるのですが。